



昔、病院というと、それらしい消毒薬のにおいがして、ちょっと薄暗く、妙な緊張感が走る場所だったように思います。

それがここまで来たんだなあと痛感しました。ちなみに父が病院勤務だった昭和50年くらいのイメージです。

ただ、個人的に病院の環境で改善していただきたいところもあります。病院ですから「静かに」というのはわかりますが、ワイワイガヤガヤしていた方が生活感があり、活気があるんじゃないかと思います。もちろん、静かな環境も必要ですが、「病気を治すところ」から「元気になる場所」と思考を転換すると新時代の病院ができるかなあと思いました。

日本の病院はもちろん静かな環境ですが、世界の病院ってどんな感じなのかも知りたいです。

歯科技工

歯科治療というと、削って型をとって白い歯や金属を入れたり、入れ歯を作ったりするイメージがありますよね。これら実際に装着するものを作っていたのが歯科技工士さんです。

ただ、この歯科技工士という職種があまりにも人気がなく、どこの養成校でも定員割れしています。理由はわかりません。なんといっても長時間労働。また、石こうやプラスチックを削るので粉塵の中での作業になり、決していい環境とは言えません。

ところがここにもDXの波は来ていました。通常は診療室で型をとって石こう模型を作り、それを歯科技工士さんに渡して作業していただくのですが、なんと、一切石こう模型は使わない歯科技工士さんが出てきました。歯科医院とのやり取りはデータのみ、実際削り出すのは器械。データの修正、調整（これは少し大変な作業）と最終磨きだけするそうです。実際に作るのは器械なので、データさえ入れておけば自分がいなくても作ってくれます。一人でやられているのですが、24時間営業！寝ている間に器械が技工物を作ってくれます。まさにエンジニアです。時代は変わっていきますね。

今回の「ごとう通信」は、偶然にも時代の変化を感じたというお話になりました😊